

**持続可能な長寿社会に資する学術コミュニティの構築委員会  
ジェロントロジー教育分科会（第21期・第1回）  
議事要旨(案)**

- 【日時】 平成22年7月13日（火） 11：30～13：00
- 【場所】 日本学術会議6階 6-C（3）会議室
- 【出席者】 （敬称略）  
秋山弘子、内田伸子、直井道子、柴田 博、堀 薫夫、芳賀 博（記録）  
欠席：岸 玲子、金川克子、小西美智子  
事務局：古西参事官 他

【議題】

- 1) 出席者紹介
- 2) 役員の選出
- 3) 分科会の設置理由説明
- 4) 今後の進め方について
- 5) その他

【資料】

- 資料1：委員名簿
- 資料2：課題別委員会及び分科会設置提案書
- 資料3：審議の進め方に関する検討メモ
- 資料4：老化概念の変遷
- 資料5：日本におけるジェロントロジーの確立に関する研究報告書（当日配布）

**議 事**

1. 出席者紹介  
事務局より委員2分の1以上の出席による会議成立を確認し、各委員の自己紹介を行った。
2. 委員長、副委員長、幹事の選出  
委員長として柴田博委員が選出された。また、副委員長として直井道子委員、幹事として、芳賀博委員が選出された。
3. 分科会の設置理由説明  
秋山弘子委員（持続可能な長寿社会に資する学術コミュニティの構築委員会委員長）より、資料2「課題別委員会及び分科会設置提案書」に基づき説明があった。

#### 4. 今後の進め方について

柴田委員長より資料3「審議の進め方に関する検討メモ」に基づき審議を進める旨の提案があり、了承された。

##### ○審議事項と全体スケジュール案

- (1) 審議事項（分科会設置提案書に記載の3つの事項） (2) 全体スケジュール案（月1回程度を目途に分科会を開催し、12月に本委員会提言（ドラフト）案の確認・検討を行う）について確認がなされた。

##### ○審議事項の枠組みの検討、役割分担

###### 1) ジェロントロジー（老年学）とは何か

柴田委員長より資料4「老化概念の変遷」に基づき、老年学の概念、老年学の歩み等について説明があり、わが国の老年学教育の遅れが指摘された。柴田委員長が、本事項のまとめを行うこととなった。

###### 2) 初等・中等・高等教育における高齢者・長寿社会に関する教育の体制・内容の把握とあり方

以下の4領域における老年学教育の現状把握とそのあり方について検討することとなった。また、役割分担者も決定された。

- (1) 小・中・高校教育・・・担当者（直井委員※、内田委員）
- (2) 学部・大学院教育・・・担当者（芳賀委員※、秋山委員）
- (3) 生涯教育（成人・高齢者教育の視点から）・・・担当者（堀委員）
- (4) 看護・医療関連領域教育（どのレベルで教育を行うかに視点をおいて）  
・・・担当者（金川委員、小西委員、岸委員）

※ 主担当者

###### 3) ジェロントロジーの研究者育成のあり方

研究者にインターディスプリナリの視点を与えることと、老年学における個別学問領域のスキルを高めることの2つの視点から、研究者育成のあり方を議論・検討する。担当者（柴田委員長）

#### 5. その他

##### 1) 委員の追加について

柴田委員長より小学生のエイジズム研究で実績のある中野いく子氏（東海大学教授）を委員として追加したい旨の提案があり、幹事会に諮ることとなった。

##### 2) 次回の分科会開催の日程について

8月31日（火）、9月1日（水）、9月6日（月）のうちで分科会委員の予定を確認したうえで決定することとなった。